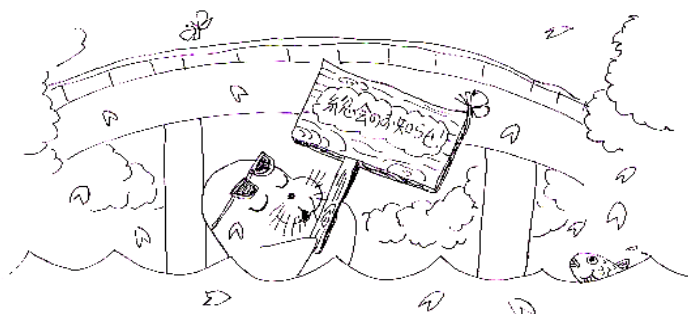


日吉台地下壕保存の会会報

第66号

日吉台地下壕保存の会



2003年度総会のお知らせ

2003年度の総会のお知らせをお送りいたします。この総会の内容を話し合っている間に、世界では人々の平和への願いも空しく大変な戦争が始まってしまいました。新たな戦争遺跡を作らない、戦争の実相を知るために戦争遺跡の保存をという戦争遺跡の保存運動にも大きな課題が投げかけられていると思います。

昨年度の総会から1年、日吉台地下壕保存の会は微力とは言え、着実な活動を続けてきました。文化庁の全国近代遺跡詳細調査対象50箇所の一つにあがったこと、戦争遺跡保存全国ネット甲府大会への取り組み、箕輪の艦政本部地下壕の学術調査への協力等々、詳しくは総会の場で話し合い、これからの活動の方向の確認ができればと思います。是非多くの会員の方々のご来場をお待ちしております。

記

日時：2003年5月17日(土)

場所：慶応義塾大学日吉キャンパス

午後1:00より

来往舎シンポジウムスペース

内容：1:00～2:00

講演「追憶の中から」

～戦時下の日吉キャンパスを語る～

講師 永戸多喜雄 慶応義塾大学名誉教授 (専攻 フランス文学)

日吉台地下壕保存の会初代会長

2:00～3:00

懇談会 永戸先生を囲んで

3:15～3:45

総会

2002年度末 沖縄の旅 報告

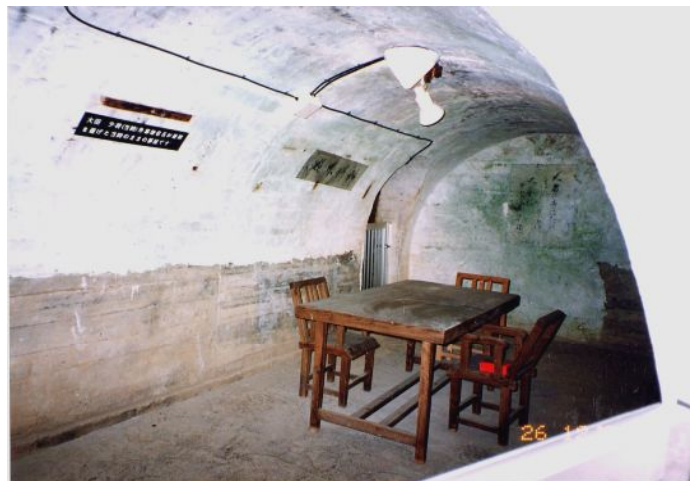
運営委員 喜田美登里

昨年の12月25日から27日、運営委員の茂呂さんが企画して下さった「沖縄の歴史(沖縄戦)と民謡・舞踊との出会いの旅」に参加しました。メンバーは9名。(横浜市の学校の先生が6名)この旅の目的は、1. 米軍の沖縄上陸から日本軍の壊滅までの流れに沿って読谷村から摩文仁までの戦跡を訪れ沖縄戦の意味と本土決戦体制との関係を考える。2. 沖縄の文化に親しむ というものです。

2日間は米軍上陸の流れを追って歩くために地下壕保存の会と同じく戦争遺跡保存全国ネットワークで活動されている沖縄平和ネットワークにガイドをお願いしました。1日目は嘉数高地から海と島の地形を見渡しながら座間味城、読谷飛行場、掩体壕、イビチリガマ等を太田玲子さんに案内していただきました。2日目は大城和也さんに首里城の第32軍司令部壕、南風原陸軍病院壕、糸数アブチラガマとガイドしていただき、最後に小禄の海軍壕を見学しました。ここは「沖縄県民かく戦えり」の太田司令官の電文で有名なところで「南部戦跡観光コース」のドル箱的存在だそうです。(日吉の)連合艦隊司令部等に打った電文の展示もあり、壕の構造等私たち保存の会にとって大変興味深いところでした。大城さんからは「豊見城村史」等資料も頂きました。ガマのタイムスリップ的体験、「戦争」が、「基地」が、「沖縄」が、体に、頭に流れ込んでくるようです。初日の夜には那覇で、村上有慶さん達沖縄平和ネットワークの皆さんと夏の全国大会以来の再会をし、沖縄料理を囲みでの交流会をすることもできました。目的の戦跡をこの日程で巡るとともに沖縄の舞踊やお料理、沖縄美ら水族館も楽しもうというとても欲張った計画だったのですが、茂呂さんのご親戚の金城さんにマイクロバスの運転をしていただき、効率よくまわれたので予定していなかった伊江島にも渡り、駆け足でしたが「公益質屋跡」を見て、阿波根昌鴻さんの小さな平和博物館「ヌチドゥタカラの家」にも行くことができました。小さなスペースに積み重ねられた、伊江島の戦いの歴史には圧倒されました。水族館ではジンベイザメ君達のお食事タイムで巨大水槽に舞うマンタ、ジンベイザメ等を楽しむこともでき、帰りのわずかな時間も牧志公設市場でオリオンビールをかたむける余裕もありました。

私たちのツアーは「歓迎 沖縄大満足の旅ご一行様」なるホテルの歓迎プレート(誰がつけたの?)に迎えられたのですが、師走の忙しさを忘れた「大満足の旅」でした。

2001年と2002年には日吉台地下壕保存の会では松代大本営地下壕のツアーを行いました。今回の沖縄ツアーも有意義でした。これからも会員の皆様と一緒に色々な体験、交流をして保存運動を進めていきたいと思えます。8月には戦争遺跡保存全国ネットワークの大会が大分県宇佐市で開催されます。8月の大分に一緒に出かけませんか?



太田司令官自決の海軍壕

慶応義塾大学日吉寄宿舍は、太平洋戦争中、連合艦隊司令部がおかれ、戦後は米軍将校が使用しました。保存の会でも地下壕の見学の際、必ず一緒に案内し(現在生活されている方がおられますの遠くから見るだけです)、その歴史的重要性を見学の方に訴えているところです。その寄宿舍で現在生活されている慶応の現役の学生さんに、寄宿舍の生活について書いていただきました。

町田壮平さんは、文学部桜井研究室で考古学を専攻され、昨年の箕輪の艦政本部の地下壕調査の際に調査スタッフとして活躍された方です。

現在の日吉寄宿舍について

慶応義塾大学文学部2年
町田壮平

皆さん、始めまして。私は慶応義塾大学日吉寄宿舍で暮らしています。寄宿舍と言えば地下壕の歴史を語る上で外すことのできない存在ですが、その現状についてご存じの方は少ないかと思います。そこでこの場を借りて、現役舎生である私が寄宿舍の今ある姿を皆さんに紹介させていただきます。

○慶応義塾大学日吉寄宿舍とは

慶応義塾大学日吉寄宿舍は、一般の学生が入れる唯一の慶応義塾大学所属の寮であり、一つ屋根の下で約50人の男子学生が生活しています。大学の寮としての役割を果たすことから、大学の全ての学部のような学生と、一緒に生活することになります。相部屋(3人部屋)で生活していますから、一人暮らしでは決してなく、アパートのように、自分本位で生活できるところでもありません。ただ一方で、いったん溶け込めば一人暮らしからは決して得ることのできない様々なものを得ることができるでしょう。

○舍内自治について

慶応義塾大学日吉寄宿舍は自治であるため、舍の運営を大学ではなく生活者である我々舎生によって行わねばなりません。例えば舎費の集金、コピー機の管理、トイレトーパーの補充といった小さなことから、寄宿舍内の規定の策定、大学側との寄宿舍運営費の折衝、よりよい生活環境を得るための話し合いといったことまで、それぞれが舎生の仕事として責任を持って取り組んでいます。このように大小さまざまな仕事を効率よく行うため、私たちは委員会を組織し、寄宿舍内外にかかわる仕事を扱います。舎生は毎週1回の会議に参加する義務を負い、そこでそれぞれの仕事の進行状況や、問題点についての協議がなされます。

○生活に関して

我々は当然普通の学生でありますから、いろいろな人間がいろいろな学生生活を楽しんでいます。サークルやバイトに没頭しているもの、資格試験に追われているもの、夜になると目が輝きだし、酒瓶を片手に明け方まで語り合うもの、皆それぞれのライフスタイルがあり、寄宿舍では多くの個性に非常に密接に触れる機会があります。これが一人暮らしにはない楽しみです。

○部屋の構成について

寄宿舍での生活は基本的に1部屋12畳3人の相部屋になります。それぞれ学年の違う

3人がくじ引きによって決められ、1年間暮らすこととなります。つまり新入生は最初、上級生2人と相部屋ということとなります。

○設備について

共用設備としては、洗濯機、乾燥機、トレーニング機器、自販機、コピー機、ファックス、風呂、シャワーのほか、皆がくつろぐ部屋や、自習室があります。また舎内ネットワークDNAに加入すれば、メールやインターネットが利用できます。自分のパソコンを持っている人は部屋から、持っていない人も共用のパソコンが利用できます。

○生活費について

寄宿舎は安い。とにかく安い。生活にコストがかからないとはどういうことなのでしょう？高い家賃として払うはずの大金を、自分という人間自身の啓発のために投資できるということなのです。舎内には一つの物事に熱中して、その道を極めようとする人間が数多くいます。各種体育会、バイク、格闘技、絵画、ピアノ、スノボ、バイオリン、麻雀、勉強、資格試験等。このように様々な価値観を持つ者同士が一同に集い、お互いを刺激し合う。それが我が寄宿舎における生活の本質なのです。

○舎内のイベントについて

舎内のイベントには大きく分けて2つあります。1つは委員会が主催し、出席が義務づけられている「委員会行事」と、必ずではないが出席が望まれる「非委員会行事」です。前者の例としては4月下旬の土日に行われる新入生歓迎旅行、春と秋に行われる早稲田大学田無寮との寮対抗慶早戦、卒舎をする4年生を送り出す追い出しコンパ等があります。後者としては5月に行われる新入生歓迎ダンスパーティー、慶早戦前日の夜から朝にかけて日吉から神宮まで歩く慶早ハイク、(仮装必修)等があります。こういったイベントは、舎生の結束力を高めるうえで非常に意義深いものです。

○人間関係について

舎における人間関係は一種のファミリーの様なものです。しかしそれは家族という、ただ親に迷惑をかけ、面倒を見てもらうものでは到底ありません。人に迷惑をかけず、共同生活の中で自己の責任を全うしたとき初めて仲間として認められ、結束が生まれるのです。舎内の人間関係は大きく分けて2つあり、その一つが上下関係です。先輩は後輩の面倒をみてやり、アドバイスをします。後輩は先輩の指導を受け、上のものを立てる。そういう設定された関係によって普段の生活では得られないものを得ることができるのです。そして寄宿舎のもう一つの関係が同輩です。4年間ひとつ屋根の下に住み、同じ釜の飯を食うということは相手の良い部分だけでなく、悪い部分も見えてきます。しかしそれ乗り越えていくことで血より濃いつながりが生まれ生涯の大切な友人となるのです。

いかがでしょうか？以上、少々舌足らずではありますが、寄宿舎の現状について述べさせていただきました。現在慶応義塾は、2008年の創立150年を機に、寄宿舎のあり方の見直しを計画しています。現在の寄宿舎の建物が取り壊され、自治寮ではなくなる可能性も非常に高いそうです。我々寄宿舎生は、現在、寄宿舎の存続について大学側と継続的な交渉を行っています。この文章を読んで一人でも多くの方が寄宿舎に興味を持ち、寄宿舎の存続に賛同して下さったら、この上ない幸いです。

2003年3月吉日

『現在の戦争の始まりと過去の戦争の始

—実時間において戦争を問う—

太田 稔

昨年10月「平和のための戦争展」で、私の周辺と若い人が話していることを発表させてもらってありがとうございました。あれから半年の間に“戦争”についての私たちの状況は、アメリカ政府が3月にもイラクを総攻撃しようと爪先だっているように最悪の状況になっています。

日本の中でアメリカのイラク攻撃に反対する行動は多くはありません。しかし、必ずしも積極的にアメリカ政府の主張を支持するわけではない人はたくさんいます。とは言え「大量破壊兵器」の証拠が出てきたらしょうがないとか、新たな国連決議があればやるべきだとか何となく思ってしまう。こうして実時間において決定的なときに反対できない、いやむしろ消極的に賛成してしまいます。

戦争は大量の戦費を必要とします。今回の戦争でアメリカは支持国に応分の負担を要求してきます。日本政府は91年に145億ドルという湾岸戦争の全戦費



の3分の1を拠出しました。日本の戦費があったから湾岸戦争はできたのです。そして30万人のイラク人が殺されました。こんな計算はしたくはありませんが10万人の戦死者は私たちの税金によってもたらされたのです。私たちの沈黙、支持によって死ななければならなかったのです。今回私たちは小泉首相が戦費にYESと言い、そのことに異を唱えなければ自動的にこれから強行されるかも知れない一方的な殺戮に手を貸したことになります。私たちの想像力と鈍感さをそのままにする限り・・・

この実時間において戦争に反対することは実に困難なことだと思います。私たちができることは何かを考えると、「個人が世界を見通す能力を養う教育力しかない」、様々な錯綜した現実と格闘し「個人が自分で考え、しっかりとした価値観を持つこと」だという会長の大西さんの年頭の言葉におおいに同感します。

核兵器の廃絶は全世界の人々の望むところであり、様々な平和運動の要求であります。しかし今回の事態は大量の「破壊兵器」を持つ政府が、アメリカに反抗的な国イラクをさんざん痛めつけた挙げ句に「大量破壊兵器」があるといいなして一方的な軍事行動に打って出るというおよそ核兵器廃絶を口にする資格のない者の理不尽きわまりない行動です。この事態が許されているのはただ、アメリカの軍力と経済的締め付けによるのではないのでしょうか。私たちは現実を見通す力を養わなければなりません。それには地域の中から反戦平和の話し合いの輪をつくり出していくことが大切だと痛感しています。

図書紹介

運営委員 亀岡敦子

『特攻―自殺兵器となった学徒兵兄弟の証言―』

岩井忠正・忠熊著 (新日本出版社)

昨年7月刊行の本書の帯には「太平洋戦争末期、極限状況で死と向き合った兄と弟。侵略戦争を美化する者への怒りの告発」と書かれている。著者はともに1943年9月の学生の徴兵猶予の停止により、学業半ばで招集された、いわゆる「学徒出陣」組である。兄忠正氏は慶応義塾大学で哲学を、弟忠熊氏は京都大学で歴史学を学んでいたが、海軍に入隊して特攻要員となった。幸い出撃に至らず敗戦となり、戦後兄は商社マンとして、弟は歴史学者として第一線で活躍してきた。今までそれぞれの場で、戦争について発言してきたけれど特攻隊員としての体験を正面にすえた本を書くのは、これが初めてとのことである。

第1章 「回天」と「伏竜」 二つの海軍特攻部隊に所属した兄の証言 岩井忠正

当時日記はもとより何も記録しなかったもので、個人の記憶によって書かれた個人の体験である、と断った上で、1年9ヶ月の軍隊生活を詳細に語る。「回天」についての研究書や体験記は多く出版されているけれど、「伏竜」についてはおそらく体験者によって書かれた数少ない貴重な記録と言えよう。それにしてもその先に火薬をつけた竹竿を手に潜水服を着た兵士が海底に並び、上陸してくる敵艦を待ち、船底めがけて突き上げる、などという、稚拙で残酷すぎて滑稽ですらあるこんな作戦を一体誰が考え出したのだろうか。実際に使われなかったけれど、訓練中に多くの事故死があったという。当たり前だ。

忠正氏は当時すでに多くの学徒兵がそうであったように、日中戦争は侵略戦争であり、米英相手に勝ち目はなことを認識していた。しかし「大勢」に背くことはしなかった。いまそれを「気に入らぬ大勢を自分で支えておきながら、その大勢を理由にこれに従うことには勇気の欠如と欺瞞があったと思う。」と書き、道義的責任をとるために「決して傍観者にならない」と決意する。

第2章 「震洋」特別攻撃隊に所属した弟の証言

岩井忠熊

日本近代史研究において著名な岩井忠熊立命館大学名誉教授は、この章で1943年12月 兄と同じ横須賀の武山海兵団に入団してから、45年8月大村湾に面した川棚の魚雷艇訓練所で敗戦を迎えるまでを、拍子抜けするほどの冷静さで書き記している。入団する3日前まで講義を受けていたという氏は、復員列車から降りたその足で大学に復学の手続きをした。軍隊内にすら「神懸かりのつまらん学問」という者もいた日本史を学ぶためである。

第3章 アジア・太平洋戦争と特攻作戦

岩井忠熊

30ページほどの本章はアジア・太平洋戦争について時代背景も含めて分かりやすく書かれている。自身がその中に置かれていた特攻作戦についてもあくまでも客観的で、小見出しは事典のように使える。

第4章 特攻と戦争を繰り返さないために

岩井忠熊

ここでは本書出版の動機を、最近の特攻容認の動きや「個を越える勇気と誇り」として美化することを黙認できなかったからだ、と述べる。そして「備え」があったからこそ日本は15年戦争に突入したのであり、「備えあれば憂いあり」と断じる。「今こそ平和憲法に依拠して九条の精神を貫くべき時であろう」とはっきり有事法制に反対している。昨年10月の「横浜・川崎平和のための戦争展」で忠熊氏は「特攻とはなんだったのか」という題で講演をされた。講演に先立って、保存の会の案内で海軍連合艦隊地下壕に入られた。特攻作戦も出されたその場所である。感慨ひとしおであった由。

《緊急報告》

航空本部地下壕入り口付近の
マンション建設について

運営委員 喜田美登里

日吉台地下壕で、現在見学可能なのは連合艦隊司令部部分ですが、ここと地下壕で続いている航空本部、情報部等が使用していた地下壕のある斜面緑地にマンション開発の計画が持ち上がり、3月20日、業者から横浜市に開発許可申請が出されていることが分かりました。ご存じのように日吉台地下壕は文化庁が史跡の指定に向けて調査を進めている近代の軍事に関する遺跡です。平成15年度までに詳細調査を行うことになっています。4月10日、保存の会は「日吉の緑と史跡を守る住民の会」と連名で下記の要望書を横浜市(市長、文化財課、北部建築事務所)、開発業者に提出しました。戦争遺跡に限らず保存運動は常に開発との“せめぎ合い”です。歴史的建造物を壊すのは簡単ですがもとに戻すのは大変です。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

2003年4月10日

横浜市長 中田宏様

日吉台地下壕保存の会
代表 大西 章
日吉の緑と史跡を守る住民の会
代表 八木沢 正

要 望 書

港北区日吉四丁目・五丁目から慶応義塾大学の敷地にかけての斜面緑地にマンション建設が予定されています。住民への業者の説明によれば、施工は大月工務店グループの(株)聞修慧社であり、3月20日には横浜市北部建築事務所に開発許可の申請もなされているということを知り及んでおります。

開発予定地には、日吉台地下壕群の一部である旧海軍航空本部の地下壕の入り口が2ヶ所以上あります。この地下壕群はアジア太平洋戦争において、連合艦隊司令部としても実際に使われており、貴重な近代史における歴史的文化的遺産となっています。また、昨年8月には文化庁は全国50ヶ所を文化財指定のための詳細調査の対象としたわけですが、こどもその一つとして選定されています。

今このマンション建設が実施された場合、地下壕入り口部分が破壊される可能性が大きく、貴重な文化財が失われることとなり、許されるべきことではありません。

またこの斜面緑地は日吉四丁目。五丁目などの住民にとって貴重な緑地ともなっています。マンション建設業者は「地下壕は遺跡ではないので、保存は考えていない」と明言しています。

また、建てられるマンションは800㎡のものが二棟ということで計画されていること、実質1600㎡以上の開発にも関わらず、既成の緩やかな1000㎡以下の開発に分割して計画がなされていることや、道路などの建設については地元住民にも納得できる説明がなされていないなどを聞き及んでいます。

つきましては、史跡保存、緑地保全という観点から、市の行政として適切な処置を執られること、開発許可、建築確認につきましては、この観点に立ち、慎重な判断をなされるようお願い申し上げます。

当面の問題としては、少なくとも文化庁の調査が終わり、その結果が出されるまでは、開発許可申請については判断はなされぬようお願いするものです。なおお答えについては至急いただければ幸いです。

見学案内から

3年前に、地下壕の内部と入り口が慶応義塾によって整備されました。それ以降、見学の内容と見学者が大きく変化しました。それまでは真っ暗の中、懐中電灯を頼りに長靴で泥水の中を一列で歩き、十分な説明をすることも聞くことも出来ませんでした。今は小学生低学年でも見学できるようになりました。最近目立って増えているのは小学校から高等学校までの学校単位の見学希望です。授業として、あるいは任意の参加としてすでに多くの生徒と先生を案内しました。確かな「歴史の学びの場」となっています。いまこんな世界情勢だからこそ「戦争の愚かしさの証し」ともいえる戦争遺跡を保存し活用することの大切さを痛感します。

保存の会では、この間多くの小中学校の児童・生徒、先生方を連合艦隊司令部地下壕や寄宿舍などに案内しています。見学者の数も確実に増えているようです。

慶応大学によって地下壕内部の整備がなされたこと、総合の時間が始まり、調べ学習としての平和学習への取り組みが行われるようになったことなどがその大きな理由になっているようです。

見学案内を通して、多くのご感想が寄せられています。その中の一部をご紹介します。

○横浜市立中学校 修学旅行へ向けての事前学習として見学

・地下壕の中は思ったより広くて暖かかった。今でもずっと昔にできたなんて思えないくらいきれいにできていてびっくりしたし、そこで人が生活していたなんてすごいと思った。話の中で一番びっくりしたのは日吉の地下壕から日本の戦争の支持を出していたということだ。日吉の近くの戦いだけでなく、遠く離れた沖縄での戦争の指示も出していたなんて信じられなかった。そこで戦争の状況が生々しく知らされていたんだと思うと少しこわいと思った。(2年女子)

・地下壕の中はとても広くあれを1ヶ月半(原文のまま)で掘ったと説明されたときには少し驚いた。でももっと早く戦争を終えていれば、こんなものを掘らずにすんだのではないかと思う。また案内役の人の説明が分かりやすく、地下壕の事がいろいろ分かった。地下壕の中にかかなりの落書きがあって、人の名前だったり、「日本連合軍」だったり・・・



なにより慶応大学を見れたことが一番良かったかも知れない。(?)二度と来られないかもしれないし。かなり広く、歩いて一周するだけで疲れてしまいそうだった。(実際つかれたが・・・)でもそれなりに楽しかったから良かった。(2年男子)

・今は蛍光灯があったけれど、なかったころ(戦中)はとてもうすくらい所だったと思う。そんな所にはとてもうじゃないけどいられないと思う。100%おかしくなりそう。上の宿舎(寮)にも入ってみたかった。戦中の海軍や陸軍といったら「食料もなく虫や木の皮を食べていた」ってイメージが強いけど、「床暖房つきの寮に入ってヌクヌクとしていたんだなあ」って少し複雑な思いがする。同じ隊長クラスでも部署によっては雲泥の差なんだろうなあと実感した。地下壕にろう人形をおいて解説とかの看板?を作るのはいいなと思うけれどもっと明るくしたほうがいい。コワイし、キモチワルイから説明に集中できないし、へんないんしょうだけのこるから。

(2年女子)

・わずか1ヶ月少々(原文のまま)であのような地下壕を掘り、その壕の中から実際沖縄戦や特攻隊の指令を出していたというお話を伺いここで、この場所から殺戮の計画と指令が出されていたんだと思うと何とも言えない気持ちでいっぱいになりました。

私は戦争の動きに対して自分は何ができるのだろうと考え苦しくなっていたのですが、最近、ある翻訳家の方が”私たちは微力かも知れないけど無力ではない。そのことにみんな気づいたとき、きっと新しい時代が来るんだと思っています。”とおっしゃって、米国のイラク攻撃を阻止する行動を起こしているという記事を読み、その通りだなと思いが楽になりました。何もできないわけではなく、人が人を殺すことはいけないんだという当たり前のことを自分の言葉で自分のやり方で伝えていくことで広げていけるんだと思いました。今戦争を体験された方が、人口の二割になり、戦争の悲惨な状況を伝えられるものが少なくなっていく中で、このような地下壕や原爆ドームなど物をもって伝えていくことがますます重要になってくると思います。保存をすすめる会のみなさま、とても貴重な物を見せていただきありがとうございます。ありがとうございました。

(保護者)

○川崎市立中学校 総合の時間、授業の一環として見学

・私は日吉台地下壕に行くことになった時、どこにそんな所があるのだろうと思いました。そして地下壕のビデオを見て地下壕は戦争の時、たくさんの情報を集めてさくせんをたてて戦地にいる人達にしじを出しているところだということを知り、地下壕に行きました。知っている人達がいなきゃ何が何だか分からないような所だけど、保存の会の皆さんが教えてくれたので楽しく学習することができました。ありがとうございました。

(1年女子)

・私は今回初めて地下壕に入りました。中は作戦室、司令長官の部屋などがあり、作戦室ではかべに作戦をたてていたんだなと思いました。そういう戦争にかかわるものを実際に見ることができて良かったと思うし、私にとってとても貴重な経験でした。本当にありがとうございました。将来はもっと平和な世の中になればいいなと思いました。

(1年女子)

● 活動の記録 2003年1月～4月

- 1/16 第7回運営委員会(慶応物理教室)会報65号発送
 1/26 定期見学会 22名、雑誌「歴史群像」4月号の取材、地下壕証明の電池取替
 1/31 地下壕見学会 川崎市日吉中学校1年50名 先生4名
 2/7 地下壕見学会 川崎市日吉中学校1年50名 先生5名
 2/9 地下壕見学会 横浜市鴨居中学校2年21名 先生6名 他5名
 2/19 第8回運営委員会(慶応物理教室)
 2/22 平和のための戦争展横浜・川崎実行委員会(慶応大学来往舎)
 2/23 定期見学会 27名
 2/28 地下壕見学会 調布学園高校3年25名
 3/11 第9回運営委員会(日吉地区センター)
 横浜市文化財課との話し合い(文化庁の詳細調査、航空本部地下壕付近の
 マンション開発について)
 3/16 地下壕見学会 川崎市幸区平和人権学級 15名
 航空本部地下壕入り口付近のマンション建設用地実地見学
 3/23 定期見学会 60名(港南区年金舎組合 緑史会 中山中学校放送部他)
 3/30 地下壕見学会 いちご会20名
 4/10 航空本部地下壕付近のマンション建設についての要望書提出
 (市長、文化財課、北部建築事務所、開発業者)

★ 予定

- 4/18 第10回運営委員会(慶応高校物理教室)会報66号発送

■ 地下壕見学会の予定 定例見学会 4/27(日) 5/25(日)

毎月第4日曜日を予定していますが、変更もありますので、必ず見学窓口に申し込んで下さい。(045-562-0443)

連絡先(会計) : 白鶴邦子 神奈川区白幡向町20-49 045-402-9090

(その他) : 喜田美登里 港北区下田町2-1-3 045-562-0443

ホームページアドレス : <http://www.geocities.HeartLand-Hanamizuki/2402>

日吉台地下壕保存の会会報 (年会費) 一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00252-2-74921
 代表 大西章 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会
 編集 日吉台地下壕保存の会
 運営委員会